

1. 教師の立場から見た、生徒の実態や生徒との関わり方

担当クラスの生徒たちは非常に優しく社交的で、明るい性格の生徒たちが多かった。一方で自分から話しかけることには抵抗がある生徒もいたが、こちらから近づくとどの生徒も笑顔で接してくれた。しかし、他のクラスでは同じように話しかけても、すぐに心を開く生徒は少なく、クラスの雰囲気によって生徒たちの反応も異なっていた。また、授業を見学させていただいていると、どのクラスにも一生懸命取り組もうとする生徒がいる一方で、すぐに私語をしたり教員の方々に授業と関係のない話をしたりする生徒がいるクラスもあった。担当クラスの生徒たちとは仲良くなることができたと思うが、距離感の取り方が非常に難しかった。文化祭に向けての取り組みなど一緒に楽しく時間を共有しつつ、自分の管轄から逸脱しないよう心がけた。私も子どものように楽しむ一方で、生徒たちにも立場の違いを理解してもらうことではじめをつけることができたと考えている。同じ実習生の中に、担当クラスの生徒に LINE 交換を依頼された者がおり、皆同じように距離感ということについて感情の抑制に困難を覚えていることがわかった。先生方は線引きをしっかりとされており、学ぶことが多かった。

2. 授業実践についての感想

授業について担当教員の方から「自信を持って失敗しろ」・「Speaking でのアウトプット活動に挑戦すること」と言われたので、ゆとりを持って授業に挑むことができた。しかし、初めは準備不足から拙い授業になってしまい、予想する生徒たちの反応と実際のそれに大きくズレがあった。授業をするたびに反省点が現れ、一つ一つ克服しながらも、「指示の出し方」という大きな課題が自分に残った。先生方を見習い、オールイングリッシュの授業を展開していたが、アクティビティなどの細かい指示も英語で出そうとすると自分がうまく説明することができずに生徒の反応も悪かった。他の先生方の授業を見学させていただき、多くの先生方と意見を交えさせていただきながら、自分なりの授業を作ることができた。最後にリテリングという活動を取り入れて形にすることはできたが、3 週間を通して授業を進める上で柔軟性に欠けており、生徒たちに大きな迷惑をかけてしまった。最初から最後まで積極的に授業に参加してくれ、また協力的な姿勢を見せてくれた生徒たちに助けられてばかりであった。また、いい授業をするためには時間を多くかけて準備することが大切だと実感することができた。

3. 教師の立場から見た、教師の姿や職員室の雰囲気

主に生徒との関わりや授業について、教育実習生という立場で教員の方々とお話しさせていただいたり、日々の雰囲気などを拝見すると、高校生の時には考えることもなかったことが多く見えてきた。先生方は絶えず生徒たちのことを考えておられ、本当に生徒のことが好きなのだということが伝わってきた。また、授業が終わると振り返りや反省をしながら、次に活かせるように考え、工夫しておられる姿

を見て授業に対する熱意をお持ちの先生方が多かった。これらは、私が高校生の際に本当のところはどうなのかと感じずっと気になっていた部分であったため、自分が思っていた以上に先生方は生徒が好きで、熱意に溢れておられとても印象に残った。教員としてのあり方を勉強することができた。また、先生方同士の仲も良く、それが学校の雰囲気の良いさにつながっていると感じた。自分が在籍していた当時と、雰囲気が少し異なって感じられたことが新鮮であったが、その陰に先生方の努力があると気づいた。

4.最後に

実習最終日に嬉しい言葉をたくさんかけてもらうことができた。担当教員から、「お前が毎日生徒たちのために頑張っているのを見ていたから、生徒たちもお前のために協力してくれた」と言われ、毎日文化祭の出し物の準備のために遅くまで残ってよかったと思った。また、同じ日に担当クラスの生徒たちから「先生みたいな先生になりたい」、「先生と3週間一緒にいて、昔に諦めた教員になるという夢をもう一度目指そうと思った」という言葉をかけられ、言葉では言い表せない喜びを感じた。